

「弁当の日」前向きに

長寿、子宝を次世代へ

徳之島で食育シンポジウム

【徳之島総局】長寿の島といわれる一方で、早世も課題となっている徳之島で9日、「健康かごしま21」推進セミナー（食育シンポジウム）が開かれた。徳之島町文化会館で基調講演や学生、保護者らが参加してシンポジウムがあり、食育を通して健康と長寿・子宝の島を次世代へ継承する大切さを確認した。



食の大切さについて意見交換した食育シンポジウム、9日、徳之島町文化会館

徳之島保健所主催。栄養士やNPO法人代表らが徳之島の現状について報告したほか、助産師の内田美智子氏が「ここに生まれてよかった」と考える子に、香川県で「弁当の日」を始めたこととで知られる元中学校長の竹下和男氏が「心の空腹感を訴える子どもたち」の題でそれぞれ基調講演した。

「弁当の日」の取り組みが分かる。だから手間をかけて食事を」と強調。「弁当の日」を始めたいきっかけや取り組みなどについて講話した竹下氏は「子どもたちは弁当作りを体験することで、社会にも興味を持つ」と指摘。「子どもだけではなく、親や学校、地域にも良い変化が現れる」と強調した。

「弁当の日」の取り組みや進め方について討議したパネリストらは「作る側の苦労が分かる」とことや「幼いころに台所に立つことで味覚の発達にもつながる」とことなど、「弁当の日」の良さをそれぞれ強調。徳之島全体で取り組むことで、生活習慣病を予防し、健康と長寿・子宝の島を次世代に継承することを確認した。

「食で育むこころの絆」をテーマにシンポジウムがあり、西日本新聞社の佐藤弘編集委員がコーディネーターを務め、両講師と総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏、上野哲伊仙中学校長のほか、中学生や保護者の7人がパネリストとなり、意見交換した。

会場からは「これから幼い子どもにも料理を教えたい」などの声も聞かれた。最後は、徳之島3町の首長らが壇上に立ち、「弁当の日」に前向きに取り組むことを宣言して閉会した。

南海日々新聞

2011年1月10日